

みずほCustomer Desk Report 2020/06/22号(As of 2020/06/19)

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値	106.95
				GBP/USD	AUD/USD
TKY 9:00AM	107.01	1.1207	119.90	1.2423	0.6857
SYD-NY High	107.06	1.1254	120.20	1.2456	0.6911
SYD-NY Low	106.77	1.1169	119.42	1.2344	0.6828
NY 5:00 PM	106.90	1.1178	119.42	1.2349	0.6833
NY DOW	25,871.46	▲ 208.64	日本2年債	-0.160	1.00bp
NASDAQ	9,946.12	3.07	日本10年債	0.010	0.00bp
S&P	3,097.74	▲ 17.60	米国2年債	0.188	▲0.67bp
日経平均	22,478.79	123.33	米国5年債	0.324	▲0.78bp
TOPIX	1,582.80	▲ 0.29	米国10年債	0.693	▲1.31bp
シカゴ日経先物	22,350.00	▲ 70.00	独10年債	-0.4180	2.60bp
ロンドンFT	6,292.60	68.53	英10年債	0.2300	0.65bp
DAX	12,330.76	▲ 51.38	豪10年債	0.8720	▲1.30bp
ハンセン指数	24,643.89	178.95	USDJPY 1M Vol	6.15	▲0.51%
上海総合	2,967.63	28.32	USDJPY 3M Vol	6.83	▲0.22%
NY金	1,753.00	21.90	USDJPY 6M Vol	7.69	▲0.06%
WTI	39.83	0.78	USDJPY 1M 25RR	-1.33	Yen Call Over
CRB指数	137.97	0.92	EURJPY 3M Vol	8.73	▲0.18%
ドルインデックス	97.62	0.20	EURJPY 6M Vol	8.95	▲0.08%

【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
6月19日	08:30	日 CPI/コアCPI/コアコアCPI(前年比)	5月 0.1%/-0.2%/0.4%	0.2%/-0.1%/0.4%
	15:00	英 小売売上高(前月比/前年比)	5月 -9.8%/10.2%	-14.9%/4.1%

【本日の予定】

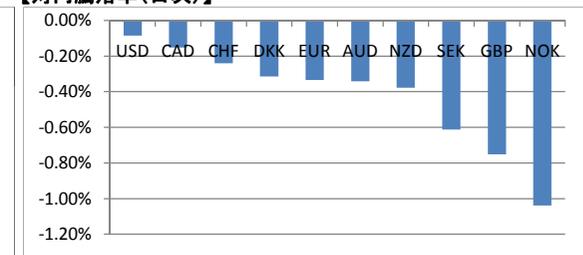
Date	Time	Event	予想	前回
6月22日	23:00	欧 消費者信頼感	6月 -15	-18.8
	23:00	米 中古住宅販売件数	5月 4.09m	4.33m

東京	東京時間のドル円は107.01レベルでオープン。高値で寄り付いた日経平均株価が下げ渋る展開となるなか、午前は106.90近辺で小幅に推移。午後はドル売りが優勢となり106.79まで下落するも、中国が米農産物購入を強化する方針との報道がドルのサポート要因となって反発し、106.91レベルで海外に渡った。
ロンドン	ロンドン市場のドル円は、106.91レベルでオープン。新規材料に乏しく閑散とした値動き。約15銭のレンジで推移し、106.85レベルでNYに渡った。ポンドドルは、1.2443レベルでオープン。5月の小売売上高が前月比+10.2%となり市場予想を遥かに上回ったがポンド買いにはならなかった。午前中に、アジア時間の安値の1.2405を下抜けると1.2361まで売られる展開に。結局1.2371レベルでNYに渡った。
ニューヨーク	海外市場のドル円は107.06まで上昇する場面もあったが、日経平均株価がマイナス圏に沈む動きを跳ねながら106.79まで反落。その後、「中国が米国との協議後、米農産物購入を強化する方針」との一部報道に買い戻され、一時107.00をタッチ。買い一巡後、107円手前で方向感なく推移し、106.85レベルでNYオープン。朝方はEU首脳会議でコロナウイルス対策の復興基金を巡る協議への期待感が強まり対ユーロのドル売りが波及し、安値106.77まで下落。売り一巡後、米国内での感染第2波への懸念が煽る中、リスクオフのドル買いが強まり、ロンドンフィクシングにかけて高値107.04まで上昇。しかし、リスクオフの流れに円も買われていることから、滞空時間は短く直ぐに106円台に戻す。午後は「米電子機器大手が感染拡大を懸念し、一部店舗を再開閉鎖」とのヘッドラインが流れ、平均もマイナス圏に沈む中、106.90近辺で上値重く推移。週末を前に積極的な取引が手控えられる中、次第に小動きとなり、そのまま106.90レベルでクローズ。一方、海外市場のユーロドルは、新規手掛かり材料が乏しいほか、EU首脳会議の結果を控え、1.1200近辺の狭いレンジで推移し、1.1210レベルでNYオープン。朝方は、復興基金協議への期待感が強まったためか、ユーロ買いが強まり、一時1.1254まで急伸。しかし、基金の規模や配分に関して合意に至らず、結果は次回に持ち越しとなり買いは長続きしなかった。その後、リスクオフのドル買い強まり、ロンドンフィクシングにかけて下落が加速すると1.1169まで安値を更新。午後もリスクオフモードが継続する中、1.1200手前で上値重く推移。終盤にかけて、再びリスクオフのドル買いが優勢となり、1.1173まで下落し、結局、1.1178レベルでクローズ。

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【マーケット・インプレッション】 夏本番を前にした円相場だが

為替、株式、債券、コモディティと流動性相場は膠着した展開が続く。ドル円相場は小幅な値動きとなった状態が続いているが、アフターコロナ後の世界への期待感から上昇を続けていた株式市場にここでも上値の重さを感じる。金相場は膠着した状況になっており、原油相場も上昇を続けてきたが調整反落の可能性を感じるところ。VIX指数(恐怖指数)は30台で膠着をしているが、株高が継続するのであれば、20台まで落ちてきても良いようなものの、30台で高止まりしていることは、警戒感がそれだけ市場には残っていると見えよう。新型コロナウイルス感染拡大再開への警戒感や底を打ったとみる景気への疑心暗鬼や、米中通商協議の不透明感、東アジアの地政学リスク、年末に掛けての企業収益の回復が本当に実現するのかといった不安がVIX指数の高止まりの背景かと思われる。米国10年債の利回りはこもと下げているが、資金が株から一部米国債にも入っている模様だ。夏本番を前に、市場全般に円相場となっているが、一方でニュースに目を向ければ米国では、フロリダやテキサスで、新型コロナウイルス感染拡大の第2波の懸念が強まっており、人種問題、そしてボルトン前補佐官のトランプ大統領の暴露本、台湾問題、香港問題、北朝鮮問題と中国絡みの紛争懸念の材料は豊富に並んでおり、円相場は、次の大相場への小休止と考えると良いかもしれない。ドル円は、ジリジリと軟化を続けているが、一目均衡表の雲の下限が106.45にあるが、この水準を突破できるか注目しておきたい。突破しなければ106円～109円のレンジ内の取引が続くそうであるが、抜ければ105円の節目も視野に入る。膠着した円相場であるからこそ、油断を怠らず来るべき次の動きに備えたりリスクヘッジを検討しておきたい。(関)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償のみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当: 関・小野崎 TEL:03-3242-7070 FAX:03-3211-5825 LDN 00531-444-179 NY 00531-113-682

■今週のドル/円 見直し

田中	竹内	筒井	加藤	関	牛島	山岸	田坂	尾身	上野
ペア	ペア	ブル	ブル	ペア	ブル	ペア	ペア	ブル	ペア
山口	小野崎	玉井	原田	大庭	高村	松本	逸見	大谷	小林
ペア	ブル	ペア	ペア	ブル	ペア	ペア	ペア	ペア	ペア

ブル	ペア
6	14